

国体北海道予選のゲームを観て亀田先生から所感をおくっていただきましたので掲載します。

バスケットボール国体北海道予選 (8/15~8/17) を観戦して

指導者育成委員会 亀田 恵 禧

今年は大会期間中、昨年にと比べると大変涼しく、選手及び役員の方々は一瞬過ぎ易かったかと思えます。結果は少年男女、成年男女とも、札幌地区の勝利となりました。少年男女共、札幌地区の選手は8月上旬のインターハイ出場の選手からなっており、その疲労が充分とれぬまま、試合に出場しており、日程の調整の難しさを思いました。将来的に考慮する必要があるのでは(?)。

少年男子のゲームですが、個人的には、ふだん、あまり見ていない(見られない)ので、久しぶりに新鮮な気持ちで見せてもらいました。特に準決勝の旭川一函館、120点レベルでの延長戦となり、結果は139-128、わずかに脚力の残っていた旭川が勝利しました。近年稀に見る好ゲームだったと思います。

決勝は122-104で、札幌が勝利しましたが、前半は互角の戦いでした。3クォーターにドライブインから外側へのパスが止められる幾つかのミスがあり、点差がひらいて勝負がついた感じです。身長にあまり恵まれていない旭川の健闘

が光ったゲームでした。

一方の少年女子は、昨年より力をつけており、ディフェンスとリバウンドルーズボールに強く、相手チームがだんだん消耗していくという場面が多くなり、決勝は96-57での勝利となりました。

成年男子は実業団チームの宮田自動車、札幌市役所、対キシイ（旭川）の、それぞれ核になるチームがあり、それに、大学生、クラブの選手を補強するというチーム編成になっているので、予想通り決勝は、札幌-旭川の対戦となりました。札幌に凡ミスもあり、72-67で、札幌がかろうじて終盤に逃げ込んだゲームとなりました。

昨年に比べ、レベルが落ちているのではと思わせられるゲームで、双方、仕事の業績諸所の環境、条件をかかえながらの選手活動、試合であることをあらためて実業団選手の厳しさ、難しさを思わされました。

成年女子はクラブが主体になり、学生が補強されるスタイルのチームがそれなりの成果をあげました。今年、体協の選手、チームの資格の変更により、単独の大学の参加が可能になるということで、他府県ではもう、出場大学も決まっているという噂も耳にします。

新しいスタイルのチーム編成を試みたのは函館成年女子です。函館大学とその卒業生を加えたチームで注目していました。勝負にいけるかなあとと思われる場面もありましたが、結果は札幌90-62函館で終わりました。

本大会も無事に終了したことは、選手の活躍はもちろんのこと、審判員も含めて競技役員の方々の熱心な奉仕の賜物として心から敬意を表したいと思います。本当にご苦勞様でした。

ただ来年以降のことを考えると、国体には、全体として様々の問題が起きてくるように思えてなりません。国体そのもののあり方を考える時期に来ているのではないのでしょうか？以上雑感として、つけ加えておきたいと思います。

H B A（北海道バスケットボール協会）指導者育成専門委員会